

平成31年度 重点取組事項 (管内概要)



地藏岳から飯豊山を望む

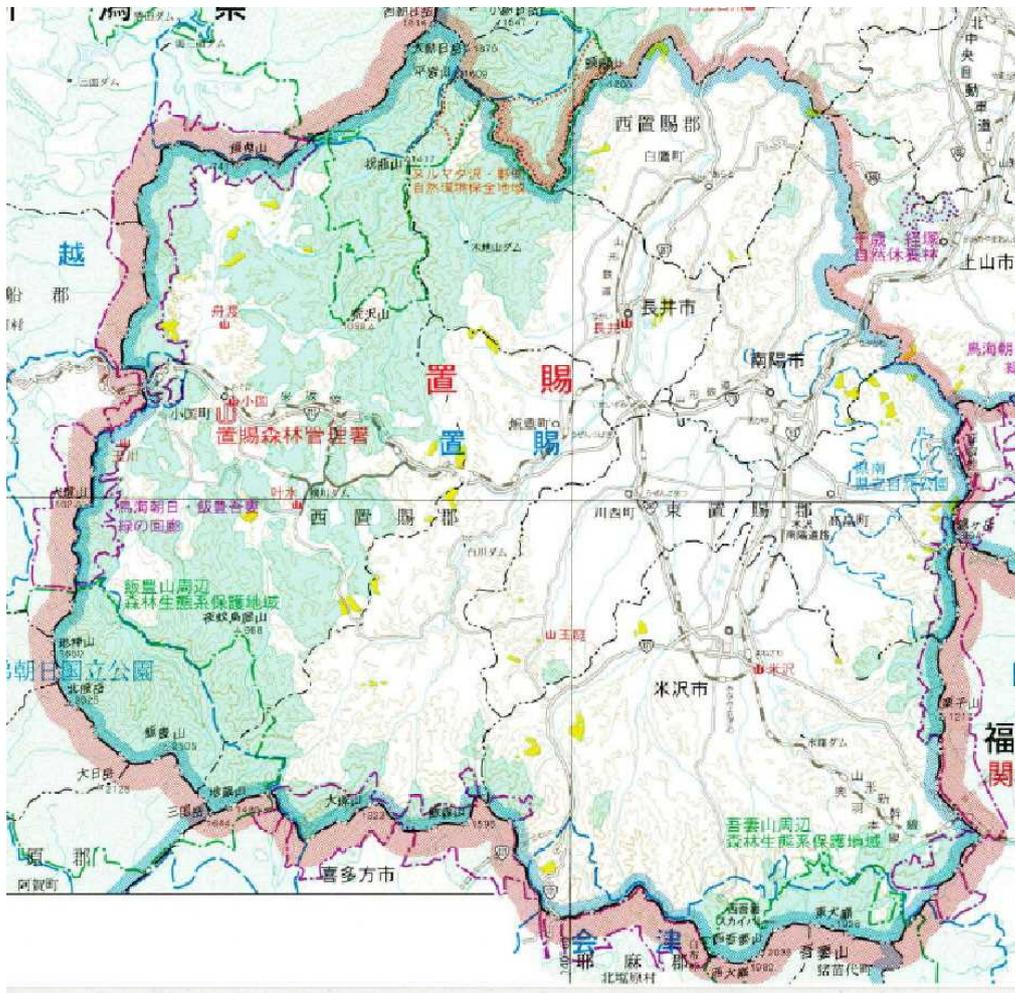


林野庁 東北森林管理局
置賜森林管理署

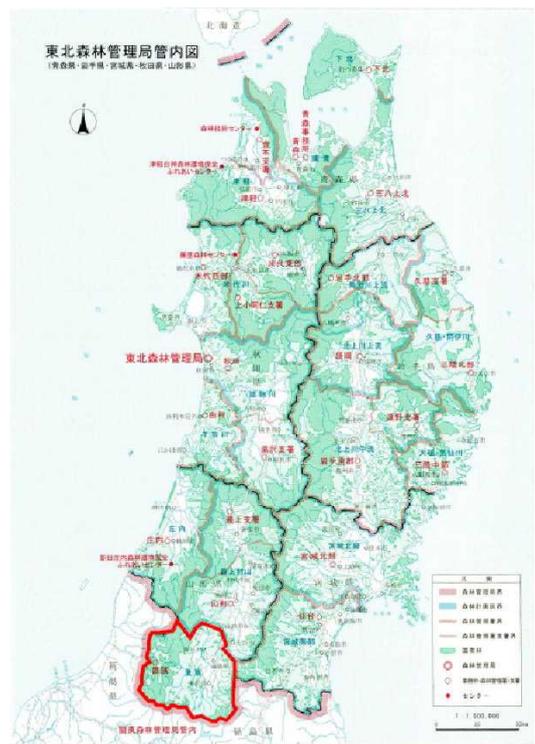
〒999-1352 山形県西置賜郡小国町大字岩井沢581-45
TEL 0238-62-2246 IP 050-3160-5860 FAX 0238-62-3553
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/sho/okitama>

I 管内の概要

置賜森林管理署は、米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町の3市5町の土地面積の31%、森林面積の40%を占める国有林野（官行造林地を含む）7万7千haを管理経営しています。



- 国有林
- 官行造林
- 森林管理署
- 森林事務所



II 公益重視の管理経営の推進

1 保安林、自然公園等の指定

- ① 管内の国有林は、最上川と新潟県に流れる荒川の源流部の重要な水源地帯に位置し、水源の涵養、土砂流出防備等に大きな役割を果たしていることから、国有林の98%が保安林に指定されています。

保安林種類別面積 (H31. 3. 31現在)

区分	水源かん養	土砂流出防備	干害防備	なだれ防止	保健	合計
面積 (ha)	63,543	(10,508) 11,645	502	(465) 54	(266)	(11,239) 75,744

- 注 1 ()は重複する保安林面積で外書です。
2 管内国有林に占める保安林の割合は、98%です。

- ② ブナなどの天然林等が森林面積の90%を占め、それらの森林が朝日連峰、飯豊連峰及び吾妻連峰の2千m級の雄大な景観を形成しており、管内の国有林の22%が国立公園等に、37%が鳥獣保護区に指定されています。

自然公園等の面積 (H31. 3. 31現在)

区分	自然公園		鳥獣保護区
	国立	県立	
面積 (ha)	17,128	1,017	28,633
割合 (%)	22	1	37

- ③ 管内の国有林には、山形県指定の史跡「飯豊山の穴堰」(飯豊町、小国町)、天然記念物「小国のそろばん玉石」(2ha、小国町)、「山形県ヌルマタ沢・野川自然環境保全地域」(765ha、長井市)もあります。

2 適切な森林整備の推進

地球温暖化防止など森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるよう、人工林の下刈、除伐、間伐等の森林整備を推進しており、平成30年度には、地拵14ha・植付15ha、下刈34ha、除伐81ha、間伐64ha等を実施しました。

平成31年度は、地拵6ha、植付10ha、下刈47ha、除伐61ha、本数調整伐43ha、間伐83ha等を行う予定です。



列状間伐の状況

3 地域の安全・安心を確保する治山事業

地域の安全・安心を確保するため、治山事業を実行しており、平成30年度には小国町の「キツネ沢地区」において溪間工1基、米沢市の「蟹ヶ沢地区」において排水トンネル点検整備補修工を実施しました。

平成31年度は、米沢市の「蟹ヶ沢地区」において落とし込みボーリング洗浄工と強制排水補修工を行う予定です。



キツネ沢溪間工



蟹ヶ沢排水トンネル補修工

4 「保護林」と「緑の回廊」

管内には、貴重な野生動植物が生息・生育するなど豊富な森林生態系を有するブナ林等の天然林が多く、国有林の3分の1が保護林に設定されています。

特に、森林生態系保護地域は、原始的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定するものであり、管内には、「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、「吾妻山周辺森林生態系保護地域」及び「朝日山地森林生態系保護地域」の3箇所が設定されています。

また、これら保護林を連結する緑の回廊として、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」が設定されています。

保護林の種類別箇所数・面積(H31. 3. 31現在)

保護林の種類	箇所数	面積 (ha)
森林生態系保護地域	3	24,878
生物群集保護林	1	1,043
希少個体群保護林	2	16
計	6	25,937

森林生態系保護地域の面積(H31. 3. 31現在)

単位：千ha

区分	朝日山地	飯豊山周辺	吾妻山周辺	計
東北森林管理局	48	11	4	63
置賜森林管理署	10	11	4	25
他署	38	-	-	38
関東森林管理局	22	16	8	46
計	70	27	12	109

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の延長・面積 (H31. 3. 31現在)

区 分	延 長 (km)	面 積 (千ha)
東北森林管理局	235	47
置賜森林管理署	65	11
他署	170	36
関東森林管理局	25	17
計	260	64

「保護林」とは

国有林は、奥地脊梁山地に広く分布しているため、優れた景観を有し、多様な動植物が生息・生育している原生的な天然林が多くあります。それらの森林を保護するため、「保護林」を設定しています。

保護林には、森林生態系保護地域、生物群集保護林、希少個体群保護林の3種類があります。

「緑の回廊」とは

森林生態系保護地域をはじめとする保護林のネットワークを形成し、野生動植物の移動の経路の確保、生息・生育地の拡大と相互の交流を促すため、設定されています。

森林生態系保護地域の保全管理

森林生態系保護地域の適正な保全管理に努めるため、自然保護団体と共同で湿原の植生回復事業を行うとともに、関係行政機関、学識経験者等有識者との情報共有、活動方針等に係る意見交換の場として、「吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する検討会」を開催するとともに、「東北森林管理局保護林管理委員会朝日山地森林生態系保護地域部会」や「飯豊連峰保全連絡会」にも参画し、効果的な保全管理活動を推進しています。

また、森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ）による巡視保全活動も行っています。



吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全検討会



吾妻山(弥兵衛平湿原)植生回復事業



森林保護員任命式

5 森林ふれあい活動

当署では、森林・林業や国有林の仕事に理解を深めていただくため、関係機関と連携して、地域の方々及び小学生等を対象にした森林教室、木工教室を実施しています。



小国小学校植樹体験



木工製作体験

また、国有林のフィールドを様々な活動の場として提供するため、旧越後米沢街道十三峠の1つ小国町の黒沢峠の保全活動に取り組む「黒沢峠敷石道保存会」と、東北森林管理局管内で初めて「多様な活動の森」の協定を締結し、敷石道の保全活動を毎年続けています。



黒沢峠の敷石道

Ⅲ 林業の成長産業化に向けた取組

農林水産業・地域の活力創造プランでは、人工林が本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源を循環利用することが重要としています。このため、新たな木材需要の創出、国産材の安定的・効率的な供給体制の構築などを目指し、山形県が推進する「やまがた森林ノミクス」とも協調・連携しながら、置賜管内の林業の成長産業化に貢献し、山村地域の振興につながるよう各種の施策を進めています。

1 民有林行政との連携・支援

平成29年度、新たに市町村森林整備計画が策定され、国有林としても計画策定にあたり民国連携の提言や効率的な森林整備に向けた助言を行う等の支援をしてきましたが、平成31年度は各計画の円滑な実行を図る観点から、引き続き民国連携や低コスト林業の推進等、民有林行政を支援することとしています。

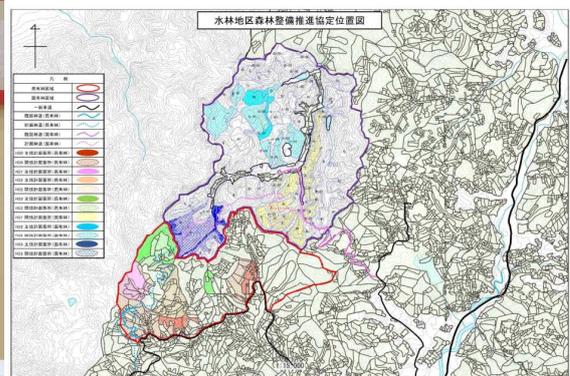
2 森林共同施業団地の設定

民有林と国有林が連携した施業の集約化・団地化により、合理的な路網整備と効率かつ低コストの森林整備を行い、地域の森林・林業の活性化に資する目的で、「森林共同施業団地」の設定を進めています。

平成24年に管内初の「小国町黒沢・種沢・大滝地区森林整備推進協定」を締結した後、平成30年2月に、南陽市、米沢地方森林組合、当署の三者による「南陽市水林地区森林整備推進協定」を締結し、民有林と国有林の新設林道の連結に向けた検討会を開催するなど、協定者が連携、協力しながら地域林業の活性化を目指し取り組んでいます。



協定締結（平成30. 2. 9）



協定位置図（南陽市水林地区）



民国林道連結に向けた路網検討会

3 木材安定供給の推進

木材の安定供給と適切な森林整備を図るため、搬出間伐等に積極的に取り組んでおり、平成30年度には、6,265m³の国有林材を伐採・搬出しました。

搬出した木材は、木材市場への山元販売委託により販売したほか、木材安定供給と利用拡大を図るため、企画競争により選定された、国産材の需要拡大や加工の合理化に取り組んでいる木材加工事業者により安定的に販売する「システム販売」により販売しました。



巻立した国有林材

平成31年度は10,000m³（うちシステム販売7,000m³）の伐採・搬出・販売を予定しています。

4 路網整備の推進

路網とは、森林内にある「公道」、「林道」、10トンの積みのトラック等の林業用車両の走行を想定する「林業専用道」、フォワーダ等の林業機械の走行を想定する「森林作業道」のことです。

造林、保育、伐採・搬出等の森林施業を効率的に行うため、作業現場へのアクセスの向上等に不可欠な施設であり、林業労働条件の改善にも寄与することから、路網の整備を進めることが益々重要となっています。



ストックポイント新設

平成30年度は、林業専用道1路線 1,160m（上層路盤工・排水工含む）と、ストックポイント（貯木土場）97mを新設しました。

平成31年度は、林業専用道の新設2路線 1,562m（上層路盤工・排水工含む）、改良1路線 28m等を予定しています。

5 低コスト林業と地域材利用拡大の推進

- ① 伐採・再造林の低コスト化の取組を図るため、平成27年度から、伐採と造林を組み合わせる事業を行う「一貫作業システム」を導入し、平成30年度は0.68ha実行しました。併せて、コンテナ苗を活用することで、一貫作業システムによる効率的な作業とコスト低減への取組を推進しています。
- ② 平成31年度についても、引き続き一貫作業システムを導入するとともに、林齢に応じて画一的に実施してきた下刈についても、現地の状況により、必要性に応じた実施回数等を判断したうえで実行することとします。また、再造林の植栽本

数についても、保安林は指定施業要件を勘案し約2,400本/ha。それ以外は、2,000～2,200本/haで計画することとし、これらの取組を通じて低コスト林業を推進します。

- ③ また、置賜地域における生産材の有利販売と広葉樹利用拡大を目的として、生産現場において採材検討会を開催するなど、民国連携による地域林業の活性化に向け取り組んでいます。



一貫作業システムによる高性能林業機械作業



フォワーダを活用したコンテナ苗運搬



採材検討会



植栽機具による植え付け作業

IV 主要事業量

○収穫量	国有林	56千m ³			
○生産事業	生産量	10千m ³			
○造林事業	新植	10ha	下刈47ha	除伐61ha	本数調整伐43ha 間伐83ha
○林道事業	新設	2路線	1,562m	改良	1路線 28m
○治山事業	落とし込みボーリング洗淨工	1地区			
	強制排水補修工	1地区			

V あなたのまちの国有林

米沢市

総面積の76%が森林で、国有林がその23%を占めています。

米沢市内の国有林の大部分は、保安林整備臨時措置法に基づき昭和29年以降に買い入れた国有林がほとんどで、市南東部にある吾妻山系の北部、最上川源流部に位置しています。

原始的な天然林が多く、貴重な森林については、平成7年に「吾妻山周辺森林生態系保護地域」に設定されています。また、磐梯朝日国立公園にも指定されています。

天元台地区は、「野外スポーツ地域」に指定しており、登山客やスキーヤーが年間を通じて訪れています。

南陽市

総面積の約60%が森林で、国有林がその3%を占めています。

南陽市内の国有林は、市北部の水林地区にあり、全域が水源かん養保安林に指定されており、豊富できれいな水の確保に貢献しています。

当地は、吉野川の源流部で、江戸の頃より米沢の上杉藩が「水御林(水林)」と定め、下流の水源確保に努めた歴史があります。

高島町

総面積の約58%が森林で、国有林がその13%を占めています。

高島町内の国有林の大部分は、町の東部、奥羽山系の西部に位置し、龍ヶ岳から豪士山にかけて県立自然公園に指定されています。

全域が水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定されており、水源の確保や国土の保全等に貢献しています。

川西町

総面積の47%が森林で、国有林がその2%を占めています。

川西町内の国有林は、町の南部浅俣地区に位置し、米沢市に接しています。

浅俣のヒメコマツは、低山(360~470m)に群生している貴重な天然林であることから、「希少個体群保護林」として保護に努めています。

長井市

総面積の約68%が森林で、国有林がその61%を占めています。

長井市内の国有林は、市の西部、朝日山系の東部に位置しています。

野川上流部は「野川風景林」に指定しており、木地山ダムからの景観は多くの人々に親しまれています。

これらの全域が土砂流出防備保安林や水源かん養保安林に指定されており、複層林施業等の公益的機能を重視した森林整備に努め、国土の保全と下流住民に豊富できれいな水を供給しています。

白鷹町

総面積の約65%が森林で、国有林がその9%を占めています。

白鷹町内の国有林は、町の西部に位置し、葉山及び藤堂山の東部に位置し、朝日町に接しています。

全域がブナやミズナラを主とする広葉樹天然林で、水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定されており、水源の確保や国土保全に貢献しています。

飯豊町

総面積の約84%が森林で、国有林がその22%を占めています。

飯豊町内の国有林は、大部分が町の南部、白川の源流部に位置し、福島県に接しています。これら森林は、ほぼ全域が水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定され、公益的機能の発揮等の役割を果たしています。

「大日杉野営場」は、「森林スポーツ林」に指定され、地蔵岳から飯豊本山に至る縦走コースの登山基地となっています。また、地蔵岳周辺の優れた山岳景観は「飯豊風景林」として森林レクリエーションの場として活用されています。

小国町

総面積の約94%が森林で、国有林がその72%を占めています。

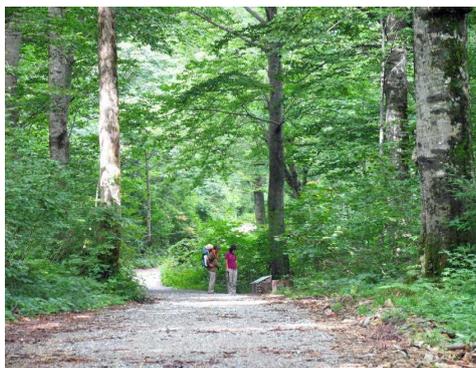
小国町内の国有林は、町の全域に分布し、北部地域の森林は朝日山系の南側に位置し新潟県と、南部地域の森林は飯豊山系の北側に位置し新潟県及び福島県と接しており、両山系とも磐梯朝日国立公園に指定されています。

両山系に属する貴重な森林は、平成4年に「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、平成15年に「朝日山地森林生態系保護地域」に設定され、原始的で多様な森林と野生動植物の保護に努めています。

また、温身平風致探勝林など5箇所がレクリエーションの森に指定され、森林とのふれあいの場として自然景観を維持しつつ活用されています。

この温身平は、平成18年に日本初の森林セラピー基地に認定され、また、平成29年1月にはモデル的なレクリエーションの森として「日本美しい森お薦め国有林」（全国100箇所）にも選定されたことから、小国町は、施設整備や受入体制の整備等、森林セラピー基地づくりを進め、利用者の増加を目指しています。

【森林セラピー基地 温身平】



森林セラピー基地 温身平

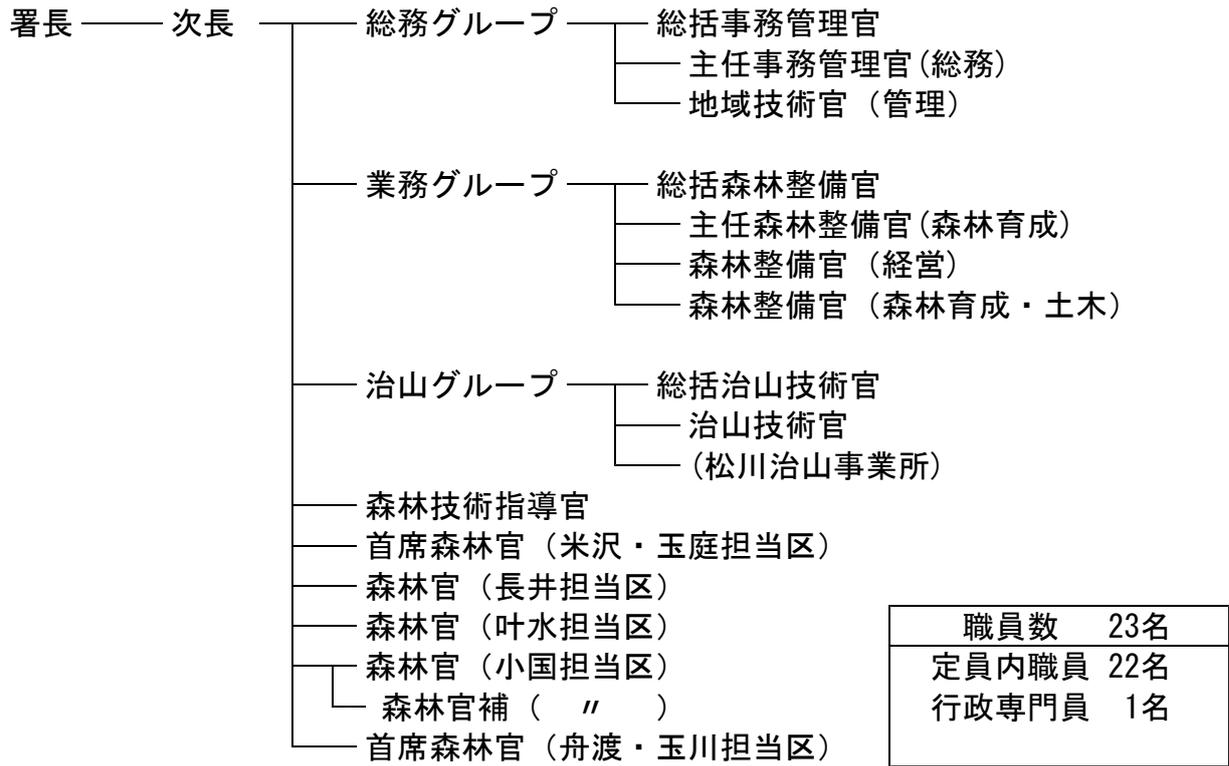
森林セラピー基地 ^{ぬくみだいら}温身平とは

森林セラピーは、森が持つ癒し効果をストレス解消や健康増進に役立てようとするものです。

平成31年3月現在、森林セラピー基地及びセラピーロードに全国で63箇所が認定されています(NPO法人森林セラピーソサエティ情報)。小国町が申請した「ブナの森 温身平」は、第1期に認定されています。

温身平は、飯豊連峰北側の山麓の溪流沿いにあり、風致探勝林55haを含む当該地域の面積は約300ha、その大半が国有林であり、ブナを中心とする天然林が広がっています。飯豊連峰への登山口でもあることから、観光や登山等の目的で多くの人々が訪れています。

VI 組織図(H31.4.1現在)



VII 沿革

- 明治22年 4月 宮城大林区署に「米沢派出所」を設置
- 明治25年 4月 宮城大林区署に「米沢小林区署」と「小国小林区署」を設置
- 明治40年 7月 米沢小林区署は、山形小林区署に統合
- 大正 2年 6月 宮城大林区署を廃止し、秋田大林区署に移管
- 大正 3年 8月 小国小林区署を東京大林区署に移管
- 大正13年12月 大林区署は「営林局」に、小林区署は「営林署」に改称
「米沢営林署」を設置
- 昭和13年 8月 小国営林署を秋田営林局に移管
- 昭和27年 3月 小国営林署旧庁舎を小国町大字緑町に新築
- 昭和32年10月 米沢営林署旧庁舎を米沢市下花沢町に新築
- 平成 7年 3月 「小国営林署」と「米沢営林署」を統合し、「小国営林署」と「米沢森林管理センター」に改組
- 平成11年 3月 組織再編により東北森林管理局の「置賜森林管理署」に改称
- 平成13年 8月 「米沢森林管理センター」を廃止
- 平成16年12月 置賜森林管理署現庁舎を小国町大字岩井沢に新築



置賜森林管理署庁舎